

第1回 大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会 会議録

開催日時 平成30年7月27日(金) 午後5時30分
開催場所 大町市役所 東大会議室
出席委員 山崎晃 縣邦彦 続麻純生 山崎雅之 百瀬泰慶 柳澤英幸
小林平八 海川明文 勝野英男 堀祐介 北澤豊繁 北沢伊絃男
中村勝彦 宮沢雄一 荒井英治郎 高橋克好 吉澤義雄 谷林夏季
奥村剛 19名
説明者等 荒井教育長 竹内教育次長 三原学校教育課長 倉科学校教育係長
中村学校教育指導主事 塩原学校教育指導主事

- 1 開会
- 2 委員の委嘱
- 荒井教育長 3 教育長あいさつ
教育委員会では、急激な少子化が進む現状を踏まえ今後の教育上の課題やまちづくりを含めた将来ビジョンなど、大町市の子どもたちにとって、より教育効果のある義務教育のあり方について検討をすすめるため、本委員会を設置した。委員各位にあっては、子どもたちにとって、どのような教育が望ましいのか、社会人としてたくましく生きていく力を育むには、どのような教育が必要なのか、総合的な見地から、ご意見、ご提言をいただきたいと考える。
今後、市民アンケートやパブリックコメントの募集も実施し、2年をかけて一定の方針を取りまとめていく予定である。協力をお願いしたい。
- 三原課長 4 大町市少子化社会における義務教育のあり方検討委員会設置要綱について (資料に基づき説明)
- 5 自己紹介 (記録省略)
- 6 委員長及び副委員長の選出
あり方検討委員会設置要綱に基づき、委員長及び副委員長を互選。委員長に大町西小学校運営委員会代表の柳澤英幸委員が、副委員長に第一中学校運営委員会代表の勝野英男委員が選出された。
- 柳澤委員長 7 協議
この検討委員会の設置要綱に基づき、議長を務めることとなった。今後の「義務教育のあり方」という大きな課題について、関係各位と議論を重ね、大町市の子どもたちにとって最も望ましい方針を見出すことができるよう力を尽くして参りたい。協力をお願いする。
それでは協議に入る。(1) 児童生徒数の推移から (2) 教職員数の推移 (3) 校舎校庭の概要は、市立学校の規模等に係る事柄であるので一括して扱うこととしたい。

事務局から説明を求める。

- 倉科係長 (1) 児童・生徒数の年次別推移と今後の推計 (資料に基づき説明)
倉科係長 (2) 教職員数の年次別推移 (資料に基づき説明)
倉科係長 (3) 市立学校の規模の概要 (資料に基づき説明)

柳澤委員長

ただ今、事務局から、児童生徒数が年々減少してきている状況、それに伴い教職員数が減少している様子、校舎等の概要について説明がなされた。これらについて、質問、ご意見があったらお出しいただきたい。

A 委員

児童生徒数の推移見込みについて、10年後まで推計しているが、どのように算出したのか。

倉科係長

将来の児童生徒数については、現在、市内住民登録がある中学2年生以下の子どもが、転出等せずそのまま進級、進学するとして算出している。便宜上、平成と表記している平成37年以降は、まだ生まれていない子どもの数を推計しているが、これは、その年度以前5年間の平均をとって算出したものである。

B 委員

児童生徒数を表とグラフで示している。一部相違している箇所があるかどうか。

倉科係長

資料の誤りであるので。精査して再提出したい。

柳澤委員長

他に質問等はないか。

荒井教育長

ただ今、3つの資料をお示しして説明申し上げた趣旨は、第一に実態として子どもの出生数が減少傾向にある状況をご覧いただきたいこと、第2に教職員数も、それに伴い減少しているが、減少傾向が緩やかなこと、第3に管理する校地校舎は変化がない状況を知っていただくためである。委員各位にあっては、これらについて共通認識いただきたい。

柳澤委員長

質疑がないようなので次に進みたい。(4) 県内の学校別学校数等の推移、(5) 県内における少子化に対応した取り組み例について、関連があるので一括して扱う。

事務局に説明を求める。

竹内次長

- (4) 県内小中学校の学級数別学校数等の推移 (資料に基づき説明)

竹内次長

- (5) 県及び県内市町村の少子化に対応した取り組み例 (資料に基づき説明)

柳澤委員長

ただ今説明がなされた県内の状況や取り組みについて質問等ないか。

C 委員

ただ今、施設一体型小中一貫校として信濃町小中学校の設立経過が紹介されたが、県内には義務教育学校はいくつあるのか。

荒井教育長

義務教育学校は、学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現行の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校であり、初等教育と、中等教育の一部の合計9年

間の課程を一体化させた学校である。県内には、信濃小中学校と、大町市立美麻小中学校の2校がある。

柳澤委員長

他にご発言がなければ次の協議議題に進む。(6)大町市が取り組んできた少子化への対応施策について、事務局に説明を求める。

竹内次長

(6)大町市が取り組んできた少子化への対応施策(資料に基づき説明)

柳澤委員長

コミュニティ・スクールの導入や小規模特認校制度の導入、支援を要する児童生徒への対応など、これまで大町市が取り組んできた施策について具体的に説明がなされた。

意見等はないか。

D 委員

この検討委員会の目的についてお聞きする。現状の学校を守っていくために議論をしていくのか、または、新たな方向性を見出していくためなのか、どちらなのかお示しいただきたい。

荒井教育長

現在、どちらとも決めていない。児童生徒が減少しても地域に密着した学校が必要という意見となれば、そのようなことを大切にしたい。一方で、児童生徒同士の交流や社会性を育むことが重要であるとの意見となれば、そうした対応を検討して参りたい。

本日は、少子化社会が進展する中で、市で進めている具体的な取り組みや他の市町村における対応をお示ししたので、各委員の選出母体となっている学校運営委員会等に持ち帰り、少子化が進む中で教育効果や課題を様々な観点から検討していただき、次回の検討委員会で発表しあい、議論を深めていきたい。

重ねて申し上げるが、この委員会は、少子化が進展する中、大町市の子どもたちにとってどのような教育が望ましいのか検討いただくものであり、教育委員会として学校の存続や統廃合などの方針を既に決めている訳ではない。

柳澤委員長

他に質問や意見はないか。

E 委員

旧市内の行政区ごとに置かれている公民館と学校の通学区が合致していないところがあり、コミュニティ・スクールを推進する上でも、育成会の活動を進めるにしてもやりづらい地区がある。公民館の配置について議論していても良いのか。

また、大町には岳陽高校があるが、市立中学校と岳陽高校との連携についても検討が必要と考えるがどうか。

荒井教育長

広範な観点から議論をいただきたいと考えている。ご指摘のほかにも、一つの小学校の卒業生から2つの中学校に進学するといったケースもあり、小中の連携という点において支障となると感じている。総合的に広い視野から議論をいただきたいと考える。

柳澤委員長

他に質疑はないか。

F 委員

本日提供された様々な資料を基に、各学校の運営協議会において

少子化、小規模校化の進展に伴う効果、課題について話し合いをして欲しいとのことだが、各校の協議会等に、資料の配布はなされるのか。

竹内次長 各学校運営協議会や委員会等の皆さんにも共通した認識をもって話し合いに臨んでいただきたいので、事前に必要な部数を各校に配布することとしたい。

G 委員 その際、児童生徒数の推移と今後の推計に併せて、学級数についても推移と見込みの資料も加えて欲しいと考える。

竹内次長 学校の規模を検討していくにあたり必要と思われるので、学級数に係る資料も加えてお配りしたい。

B 委員 基本的な部分でお聞きしたいが、児童生徒数の推計は転入転出を考慮しているのか。

荒井教育長 推計については、出生数を基に算出しており、自然減や転入、転出等の異動については考慮していない。

B 委員 資料の最後のページに不登校、不適応の状況が示されており、いじめが0件となっているが、いじめは本当はないのか。

竹内次長 ご覧いただいている部分は、不登校に至った要因を示した表であり、いじめが原因で不登校に至った件数はなかったということである。

柳澤委員長 他に質問、意見はないか。

H 委員 ひとつコメントさせていただく。

県内の他の自治体においても同じように少子化に伴う課題あり、検討がなされている状況にある。

そのような中、「文部科学省では公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引き」を作成し、規模等の標準を示している。

それぞれの自治体において、地域住民や保護者と対話を通じて合意形成を図りつつ、実態を踏まえた方針や基準を定め、具体的な検討を進めていくことが期待されているところである。

柳澤委員長 他になければ次に進む。(7) 今後の進め方について協議する。

竹内次長 この検討委員会は、2年をかけて検討を進めていく計画であり本年度については、3回程度、会合を予定している。

本日は、児童生徒数の減少傾向、それに伴う教職員数の推移、また、学校施設の状況や今まで取り組んできた少子化への対応施策について説明させていただいた。

次回については、11月の開催を予定しているが、次回までに本日説明させていただいた事項を基に、各学校の運営協議会、委員会等において、望ましい教育のあり方などを議論いただき、出された意見を持ち寄って検討を深めて参りたい。

柳澤委員長 ご質問はないか。ないようである。それでは、説明のあったとお

り、本日の資料をもとに、それぞれの学校等で話し合いを行い、取りまとめて次回の検討に臨みたい。委員各位の協力をお願いします。以上で協議事項が終了したので、進行を事務局にお返りする。

8 その他

竹内次長

事務局からは特に連絡事項等はないが、委員みなさんから全体をとおして発言はないか。

ないようであるので、閉会する。

9 閉会

勝野副委員長

閉会のことば （記録省略）

午後7時20分閉会